

質疑応答(要旨)

Q1	リチウムイオン電池(以下、LiB)再生事業について、障壁や課題は何でしょうか？
A1	<p>コスト(採算性)が課題と考えております。</p> <p>民生用LiBについては、技術的、コスト的にも当社単独で処理できると考えています。</p> <p>しかしながら、車載用LiBは1台につき300kg程度あり、電池容量が大きく、危険性が高まることから、民生用LiBと比較して、より多くの処理コストがかかります。</p> <p>そのため、当社単独ではなく、複数の企業と協力して取り組んでいくことが重要になると考えております。</p>
Q2	海外での事業展開はあるのでしょうか？
A2	<p>当然、あると考えております。</p> <p>LiBの再生は、「地産・地消・地再生」と、同じ場所で行われることが重要であると考えております。</p> <p>したがって、現地でのスキーム構築も含め、最も効率の良い場所において事業を展開していくことを念頭に置きつつ、今後の事業環境や優先事項を考慮しながら検討してまいります。</p>
Q3	売上高 100億円の実現可能性はどれくらいでしょうか？
A3	<p>ご質問の主旨は、既存事業のみでの売上高 100億円の実現可能性と捉えて、回答させていただきます。</p> <p>貴金属事業を筆頭に既存事業についても、まだまだ伸びしろがあるものと考えております。既存事業における技術についても磨き続け、当社の取り扱うアイテムを更に増やしていくことで、売上高100億円の達成は十分に可能であるとと考えております。</p>
Q4	アサカ理研の技術的な優位性は何でしょうか？
A4	<p>一言でいえば、溶媒抽出を用いた湿式処理の技術です。</p> <p>LiBには主にコバルト、ニッケル、リチウムが含まれておりますが、特にリチウムの回収には湿式の技術が有用です。</p> <p>当社は湿式処理を用いたリチウムの回収技術が強みと考えており、今後さらに回収率の向上に努めてまいります。</p>

(ご留意事項)

この資料は、当社説明会にご参加できなかった方のためのご参考として掲載しているものであり、説明会で話した内容をそのまま文章に起こしたものではありませんことをご了承ください。